

すぎのこ



尚綱大学附属こども園
尚綱大学附属こども園

希望を胸に羽ばたいて！

温かな日差しが春の訪れを感じが弾みます。

豆まきをして立春を喜んでいましたが、あつという間に2月が終わろうとしています。

進級や進学する喜びに胸を膨らませていくところですが、年長組にとっては、残り少ないことも園生活です。友達や先生と共に、存分に楽しんでいって欲しいと思います。この時期、つい「こんなこと出来ないんじゃないや、〇〇組になれないよ」「小学校に行ったら、叱られるよ」などネガティブな言葉が出やすいものですが、いよいよ進級・進学。前に進むことを不安と思わず、期待感をもってするように声をかけていただければと思います。「大丈夫ー大丈夫ー」「楽しみだね」「やってみようー」と、プラス思考の言葉かけを大事にしてください。どうぞ、新しい生活を楽しみにして、ゆったりと

した気持ちで準備をすすめて下さい。

最後になりますが、一年間、園の教育活動のためにご協力をいただきました保護者の皆様へ、心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

「達成感」を得る

「非認知能力を育てる その二」

子ども夫婦のところから、スマホアプリで孫の成長の写真や動画が時々送られてきます。先日までうつぶせはできるが、前に進むつむりが後ろに下がるか円回転のように回ってしまった孫が、肘を使ってほふく前進できるように became 動画が親の歓声とともに送られてきました。その二日後には両手を支点にして前進できるようになった動画が。さらに数日後、自分で送座りできるようになった様子が送

られてきました。赤ちゃんの成長は目覚ましいもので、日々驚きと感動の連続です。きっとこの孫は親の歓声を心地よく感じ、本人はよく分かっているでしょうが、達成感をこの子なりに感じているのではないかと、孫の笑顔から想像してしまいました。

赤ちゃんは一つ一つ目の前にチャレンジし、できるよになることが見た目にとでも分かりやすいものですが、少し大きくなってくると変化の顕著さは薄れてきます。親が気づかないうちにいつの間にかできるようになっているということも多々あります。気づかないのですが、子どもはその過程でいろいろな経験を積んでいます。

例えば、この園児は無心で上着をたたんでいました。たたみ方がとても上手です。

ですがここに至るまでは様々な難しさ・苦労があったことでしょう。どこで折りたためばいいかな、ハンガーへのかけ方など、この園児なりに

いろいろな工夫をしてきたことでしょう。そして上手にたためたときに本人なりの達成感を感じたに違いありません。その様子を想像すれば、こちらまで嬉しくなってきます。子どもは遊びや生活の中で小さな達成感をたくさん感じているはず。出来上がった結果だけでなくその過程を認めて励ましてあげたいものです。

さてこの達成感はやリ抜く力にも通じ、人生の成功のために特に重要な非認知能力とも考えられています。（「学力の経済学」中室牧子著より）達成感を得られれば成功体験につながり自己肯定感が上がったり、新たな挑戦に前向きになれるりすることでしょう。

達成感を子どもが得るために必要な要素として次のことがあげられるそうです。

○一定のストレスや忍耐

ゴールに至るまでのストレス値が大きいわど、報われたときの達成感も大きくなりますが大きすぎるストレスは挑戦の失敗につながるため、子どもの精神力や忍



耐力の限界を加味したうえで「難しいけれどもできそうだ」程度に定めることが大切です。○子ども自身の主体性 達成感の獲得では、お子さん自身の主体性も求められます。大人から強制されてする努力や、周りの友達に合わせて嫌々ながらする努力では、達成感はいずれに傾向にあります。自分自身がやる気を持って目標を設定し、能動的に努力する姿勢が大切です。

年長さんは先日生活発表会を終えて縄跳びを二人で飛んだり、竹馬で走ったり止まったりなどこれまでにできなかったことに挑戦する姿が見られます。新たな達成感を得ようとしているようです。発表会が終点なのでなくそれをきっかけとして新たなチャレンジをしている園児を見て、修了式までたくさん遊んでほしいと思いました。

